

社会福祉助成事業成果レポート

静岡県福祉施設士会

〒421-1211 静岡県静岡市葵区慈悲尾180番地

助成事業の概要

令和6年10月24日（木）から25日（金）にかけて浮月楼 徳川慶喜公屋敷跡にて、「令和6年度 第36回日本福祉施設士会 関東甲信越静岡ブロックセミナー静岡大会」を開催いたしました。各都県の会員施設の方々にご協力を頂き、「福祉施設士の誕生の時代から地域共生社会実現の時代を迎えて」をテーマに50名の参加者のもと行なう事ができました。

セミナー1日目は、静岡県福祉施設士会 寺田亮一会長の開会の言葉から始まり、日本福祉施設士会 藤田久雄会長、関東甲信越静岡 古谷田紀夫ブロック長にお言葉をいただきました。

続いて大会後援者である、社会福祉法人静岡県社会福祉協議会 藤原学常務理事よりご祝辞をいただきました。また、協賛・助成をいただきました、公益財団法人日本社会福祉弘済会 理事・事務局長 近石裕二氏からもご祝辞をいただきました。

基調講演では、株式会社福祉新聞社 代表取締役社長 松寿庶氏より【福祉施設士会に期待するもの】と題して、社会福祉施設をめぐる動向、東京一極集中に触れ、地域間で状況が異なるが協力し合い最適な連携を見いだしてほしいと話されました。

静岡県福祉施設士会会長からは、昭和52年4月22日に撮影された、第一回福祉施設士講習会修了式の貴重な写真を資料としてご提供いただきました。

次に医療法人社団リラ 溝口病院院長 寺田修氏

より【社会福祉施設等における職場のメンタルヘルス】と題して、こころの健康の定義、人生のストレスに対処していく方法、職場での職員のメンタルヘルスの課題、適応障害の克服の方向性などグループワークも交えながら講演をいただきました。近年メンタルヘルスは経営課題にもなっています。職場の環境改善についてどのようなことを意識して活動をしていくのかを考える時間となりました。1日目の研修修了後には、講師の方々を囲み参加者どうし懇親を兼ねて交流会をおこないとても楽しい会となりました。

セミナー2日目、元ラグビー日本代表、ラグビーワールドカップに3度出場したこともある、静岡エスアカデミア・スポーツクラブ理事 小野澤宏時氏より【チームになるためのコミュニケーション実践】について、講演をいただきました。チームをつくり、ゲームをおこないながら与えられた課題をチーム内で相談し体を動かしながら達成させていくということには参加者がとても盛り上がり時間が経つのを忘れるくらいでした。

講演終了後、静岡県福祉施設士会会長のお礼の言葉、次期開催県、神奈川福祉施設士会 古谷田紀夫会長のご挨拶後閉会となりました。

事業の成果

令和6年度 第36回関東甲信越静岡ブロックセミナー・静岡大会のテーマは「福祉施設士の誕生の時代から地域共生社会実現の時代を迎えて」と致しました。

前回の第26回静岡大会の際のテーマは「社会福祉法人に期待するもの」と問題提起を致しました。

日本福祉施設士会の倫理綱領には、3として地域福祉向上のため、積極的にその役割を果たす。4として福祉施設士は社会福祉における専門家として自覚をもち、創造性と開拓性を発揮すべく自己の研鑽に励むとあります。施設主体の時代から社会福祉法人主体の時代に、そして今日の社会福祉法人は共生社会の実現に主体的に取り組むことを要請される時代を迎えております。

今回のセミナーでは、参加者の皆様お一人お一人がこれからの時代の要請を予見し実現に向けた課題を見出して頂き、セミナー終了後も共生社会実現のために主体的に取り組んで頂けると感じました。

徳川家康が最も愛した街、静岡市 徳川慶喜公屋敷跡 浮月楼にて各都県の会員の皆様をお迎えし、開催できたことはとても有意義なセミナーとなりました。

施設士資格を取得された方はおりませんでした。福祉施設士行動原則の中にも、福祉施設長の質向上を図るためには、資格取得時のただ一度の学びでは十分ではなく、継続的な学びが必要であると書かれています。

社会福祉施設の運営、管理の責任を担う方々が、興味を持ち参加して頂けるセミナーや研修会等の開催、福祉活動を展開できる取り組みを活動を通して伝え、行うことができたと感じています。

■ 成果の広報、公表

日本福祉施設士会 会報 「福祉施設士」
vol.363に開催報告を掲載

都道府県会員への配布

静岡県庁：健康福祉部・こども未来局・福祉長寿局・障害者支援局

静岡市役所：児童福祉課・高齢者福祉課・障害者福祉課への送付

静岡新聞：令和6年10月25日（金）朝刊への掲載

■ 今後の展開

現在、静岡県福祉施設士会の会員は12名です。

年々会員数が減少する中、近年では静岡県で福祉